

都弱視研

東京都弱視教育研究会
練馬区中村北4-17-1
発行人 瀧嶋克己
印刷 依田印刷(株)
第50巻 1号発行 R.3.2.26

令和2年度の東京都弱視教育研究会の活動

東京都弱視教育研究会 会長 瀧嶋克己
練馬区立中村西小学校 校長

東京都弱視教育研究会（以下「都弱視研」）は、都立盲学校4校（文京、葛飾、八王子、久我山青光学園）、筑波大学附属視覚特別支援学校、そして区市町村立小・中学校の弱視通級指導学級は、今年度新たに新島村立新島小学校が加わり12校（小学校9校、中学校3校）の相互の連携を図るとともに、広く弱視教育の研究と普及を推進することを目的として会を運営しています。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため予定していた総会は、臨時休業明けに書面総会という形で行いました。事業計画では年間10回の研究全体会（授業研究、公開授業、講演会を含む）を計画しました。この中には、紙面による資料提供やWeb会議システムを使用した授業研究等も含まれます。できるところから研究を前にすすめています。

区市町村立小・中学校の弱視通級指導学級には、視力の測定範囲「0.01～0.03」「0.04～0.09」「0.1～0.3」「0.35以上」で眼鏡等矯正しても視力が上がらない児童・生徒が在籍しています。外見からは、児童・生徒の見えにくさは伝わってこないことが1つの特徴です。

弱視児童・生徒はただ単に視機能が低下しているだけでなく、この状況からくる経験の質や量が不足している点も特徴として挙げられます。この点は、学習や日常生活面にも影響してきます。この経験の質や

量を補うためには、学校や家庭で意図的に物を手で触ることや動きのある物を動画等で見せることが必要となります。

もう1つの特徴はコミュニケーションの不足が挙げられます。外見からは、見えにくさが伝わってこないため周囲も声かけができず周囲と孤立してしまう傾向があります。何ができて何ができないかを周りの人にわかりやすく説明できる力を育成することが弱視教育にも求められています。

そこで、都弱視研では、研究主題「弱視児童・生徒の自立活動に関する指導内容・方法の研究」副主題は、昨年度に続き「『主体的・対話的で深い学び』思考を伴う活動を取り入れた指導について」としました。特に「自己理解」に焦点を当て、自分の見え方を知り、見えにくさを相手に伝えることができる力を育てていきます。

その他の活動では、小学校の弱視通級指導学級に通う児童が楽しみにしている「上野ZOOスクール」があります。上野動物園と都弱視研で協力しながらすすめています。残念ながら今年度は中止となりました。動物に実際手で触るなど児童の興味関心を引き出すよい企画でした。来年度は実施できるようになればと思います。

児童・生徒の個々の課題を見失わず、これからの社会を生きる力を付けさせていきます。関係諸機関の皆様のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。

資料提供（感染防止対策のため紙上発表）

第 1 回研究全体会

令和 2 年 6 月 足立区立足立小学校

足立小学校は①ミチムラ式漢字学習法、②パワーポイント教材「電車が通ります」、の2つの資料提供を行いました。

ミチムラ式漢字学習法は、「部品の組み合わせ」で簡単に書ける、音訓セットの「漢字のタイトル」で読みに強くなる、漢字が苦手な子でも取り組みやすい、唱えて覚えるユニバーサルデザインの学習法です。

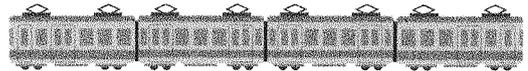
②は、「教師と親のための弱視レンズガイド（稲本ら、1997）」に記載されている「年少弱視児用弱視レンズ基本訓練プログラム」より、動体認知の練習教材をアレンジしています。プログラム通りの練習を行うためには、一定の速さで動き、かつ速度の調節が可能な三次元の玩具が必要でした。より手軽に、また正確に練習を行う方法はないか試行錯誤し、パワーポイントのアニメーション機能を利用する方法に辿り着きました。様々な列車の上に取り付けられたひらがなカードを、単眼鏡で読み取る教材です。

この教材のよいところは、二次元であるため、変動しやすい児童の興味関心に細かく対応できる点です。実際に使用すると、見えなかったものに対して「見えなかったのもう一度見せてください」と楽しそうに挙手する児童の様子が見られます。児童の関心を刺激することで、見えないことに自信を失くすのではなく、もっと見たいという意欲に変えることが可能です。今後も、カタカナやアルファベット、漢字などにバリエーションを変えながら、楽しく単眼鏡使用スキルを高められる教材を作成します。

（足立小学校 澁谷律子・神保有花）

参考文献

稲本正法・小田孝博・岩森広明・小中雅文・大倉慈之・五十嵐信敬編著（1997）教師と親のための弱視レンズガイド．コレール社．



第 2 回研究全体会

令和 2 年 7 月 大田区立東調布第三小学校

東調布第三小学校は、①「よく見てみよう」、②「聞く」学習、③わかたけ給食・ペア学習の3つについて資料提供を行いました。

「よく見てみよう」は、弱視児にとって大切な「よく見る」学習の一つです。身近な野菜や硬貨などを実際に触ったり、ルーペや拡大読書器を使って拡大したりしながら、細かい特徴を捉えます。多くの発見や驚きがあり、物事への興味関心が高まっています。

「聞く」学習では、耳から入る情報の大切さに着目し、音声教材を活用しています。聞き逃さないように早く書く練習を繰り返し行うことで、集中力を育てています。

コミュニケーション能力の向上を図る学習の一つがわかたけ給食です。校内通級児を月1回集め、給食を食べながら親睦を深めます。ペア

学習の時間も、通級児にとって大切な交流の機会です。同じ曜日、同じ時間帯に通級している児童が一緒に同じ課題に取り組みます。意見を言ったり、アドバイスをしたり、学年の垣根を越えて互いに協力しながら楽しく活動する様子が見られます。

また、全校児童に向けて、弱視者理解の啓発も積極的に行っています。昨年度は、全校朝会の時間にプロジェクターを使用して、紙芝居『ななちゃんの学校生活』を紹介しました。本年度は、校内放送を活用して、弱視学級に関するクイズを行いました。

※『ななちゃんの学校生活』とは、元江戸川区立小岩小学校教諭の宮城先生が弱視学級の理解啓発の一環として作成されたものです。

（東調布第三小学校 黒谷光弘・羽角智美）

第4回研究全体会 紙上発表（公開授業の代替）

令和2年9月7日(月) 東京都立葛飾盲学校

今回は、都立葛飾盲学校の「歩行グループ」より、以下の2点について、研究内容を発表します。

- (1) 校内の歩行環境の整備と工夫
- (2) 歩行の動画資料の有効な活用法の検討と試行

1つ目の「校内の歩行環境の整備と工夫」は、校内の廊下や階段に設置してある各シンボルマークを見直し、不要と判断したシンボルマークを撤去したり、同じ意味のものは統一したりする取り組みです。具体例として、「階段へ行くために廊下を横断する」ことを示すシンボルマークを統一し、似ているものが他にある場合は撤去しました。

2つ目の「歩行の動画資料の有効な活用法の検討と試行」は、幼児・児童・生徒の歩行の実態を知ることができる動画の利点を生かした研究です。

まず共有サーバー内の専用フォルダに、定期的に歩行の動画を保存し、それをもとに情報を共有したり、指導法を検討したり、指導の実践に役立てます。動画資料の保存は時系列で幼児・児童・生徒の成長を確認できるだけでなく、知的障害のない視覚障害児が少なくなっている現状では、その保存だけでも貴重な資料です。

今後の課題は、「動画資料の管理」と、「歩行指導関係の教材の充実と校内環境の整備」です。サーバーの容量は決まっているので保存期間を決めたり、個人情報取り扱いに注意したりすることが必要です。また、歩行指導に使用する「簡易版校内立体模型」や「教室内模型」を新たに作成する等、教材を充実させていくことや、校内に設置された手がかりを整理・統一して、学校全体で共有し、設置方法のマニュアルを作成していくことを計画しています。

(記録 久我山青光学園 濱口直也)

第5回研究全体会

令和2年10月5日(月) 東京都立文京盲学校

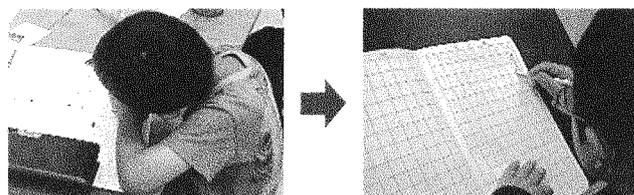
専門性向上研修

T式視距離調整学習

筑波大学附属視覚特別支援学校

特別支援教育コーディネーター 山田 毅 先生

多くの弱視児童が必要以上に視対象に眼を近づけているという実態があります。指導者が「もう少し眼を離して読んでみよう。」と言ってもなかなか自分から眼を離して読むことはできません。そこで、視距離を保っても文字が読めるという潜在能力に児童自ら気づき、離しても見えるという自信をもってもらうために、このT式視距離調整学習法を開発しました。今回は適切な視距離の調整方法、この教材の使い方、提示の方法などについて、解説しました。弱視児童に潜在している可能性を引き出す1つの方法として、ぜひ活用してください。



こんなに離しても見ることができるようになりました。

盲学校の専攻科について

都立文京盲学校・都立八王子盲学校

盲学校の専攻科は、理療科や保健理療科の職業科です。国家資格を取得し職業自立することを目指し、就職等の将来を見据えた教育を、日々積み重ねています。

(記録 中村西小学校 蕪木真由美)



【令和2年度 東京都弱視教育研究会 役員一覧】

役 職	氏 名	所 属 校
会 長	瀧 嶋 克 己	練馬区立中村西小学校 (長)
副 会 長	田 島 忍	都立葛飾盲学校 (長)
副 会 長	後 藤 真 司	世田谷区立笹原小学校 (長)
監 査	望 月 伸 悟	町田市立本町田東小学校 (長)
監 査	永 浜 幹 朗	江戸川区立第四葛西小学校 (長)
事務局長	尾 崎 公 江	練馬区立中村西小学校
会 計	北 川 由 美	世田谷区立笹原小学校

【令和2年度 東京都弱視教育研究会 実施報告及び今後の事業計画】

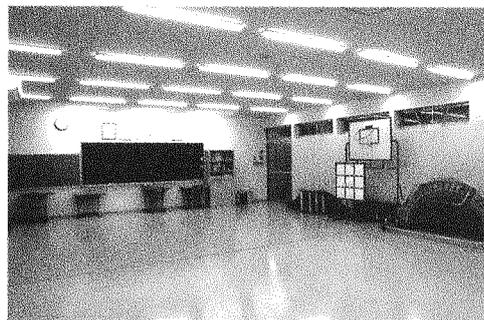
月	項 目 (会 場)
6	令和2年度総会 事業報告・会計報告・事業計画・予算案 (書面総会) 第1回研究全体会 足立小学校による資料提供 (紙上発表)
7	第2回研究全体会 東調布第三小学校による資料提供 (紙上発表)
9	第3回研究全体会 各分科会年間計画の検討 (中村西小学校) 第4回研究全体会 葛飾盲学校による実践紹介 (公開授業の代替・紙上発表)
10	第5回研究全体会 専門性向上研修 東西ブロック別研究会 (文京盲学校) 第6回研究全体会 研究授業① (立石中学校) (オンライン) 講師: 広島大学准教授 氏間 和仁先生
12	第7回研究全体会 講演会「自己理解について」(オンライン) 講師: 愛知教育大学講師 相羽 大輔先生
1	第8回研究全体会 研究授業② (笹原小学校) (オンライン) 講師: 愛知教育大学講師 相羽 大輔先生
2	第9回研究全体会 年度末反省・次年度事業計画検討 (中村西小学校)
3	第10回研究全体会 次年度研究テーマ・組織検討 (中村西小学校)

アンテナ No.72

江戸川区立小岩小学校

本校の弱視通級指導学級は、昭和45年に開設されました。今年で50周年の節目の年を迎えます。同窓会を行う予定でしたが、代わりに記念誌を作成することとしました。記念誌を通して、児童のキャリア教育につなげていく予定です。

現在は、校舎改築に伴い仮設校舎で通級指導をしています。仮設校舎になっても弱視学級には、調光設備や広いプレイルームが設備され、弱視児童が安全・快適に過ごせる環境になっています。



また、弱視教育を理解してもらうため、毎年3年生に「弱視理解教育」を行っています。見えにくさの体験を行った児童からは、「見えにくい大変さが分かった」「見えにくい友達が困っていたら、助けてあげたい」などの感想が出ました。

(須藤 利紀)